Q３　品濃町は元々から横浜市だったのでしょうか？

A

・「いいえ」。

・明治元（1868）年に誕生した神奈川県の領域は旧相模国の全域と旧武蔵国の一部からなっていましたが、その旧武蔵国に明治 22（1889）年に誕生したのが横浜市であり、大正 13（1924）年に誕生したのが川崎市です。つまり、両市とも生粋の「武蔵っ子」だったのです。

・ところが、川崎市は「武蔵っ子」のまま今に至っていますが、横浜市は市域拡張に取り組み、次々と旧武蔵国の町村を合併していったばかりか、遂には昭和 11 年の第 4 次拡張において合併の手を旧相模国にまで伸ばし、鎌倉郡の永野村を合併してしまったのです。これで、横浜市は純粋の「武蔵っ子」から旧相模国とのハイブリッドになってしまいました。

・そして横浜市の市域拡張は更に続き、昭和 14 年の第 6 次拡張では、当時 5 町 9 村あった旧相模国鎌倉郡のうち 8 か町村を一挙に合併し、このときに、8 か町村の一つであった鎌倉郡川上村の「大字（おおあざ）品濃」も横浜市に取り込まれてしまったのです。この結果、明治 22 年の町村制施行時に 2 町 18 村もあった鎌倉郡は 4 町 2 村（※）になってしまいました。こうして横浜市に誕生したのが旧戸塚区（その後、1969 年に瀬谷区が、1986 年に栄区・泉区が分区）です。

・右図のとおり、横浜市の中に旧武蔵国と旧相模国の境界線（赤い線）が走っているのは、こうした経緯からなのです。

・したがって、品濃町が横浜市戸塚区品濃町になったのは昭和 14 年からですが、では、横浜市に合併される前はどのような存在だったのでしょうか。

・明治 22 年 3 月までは、「鎌倉郡品濃村」という、れっきとした独立の「村」だったのです。ところが、同年 4 月の町村制の施行に合わせ、上柏尾村、下柏尾村、前山田村、後山田村、舞岡村及び平戸村と合体して「鎌倉郡川上村」となったため、品濃村は川上村の中の「大字品濃」となってしまい、独立した「村」ではなくなってしまったのです。

・「大字」は「おおあざ」と読みます。明治 21（1888）年に日本を近代化するために制定した地方制度を「市制・町村制」といいます。その制度に移行するために合併が行われた際、江戸時代以来の村の地名や区画は消滅することになりましたが、それを新しく誕生した市町村にそのまま引き継いで残したものが「大字」なのです。更にその下にある「小字」は大字より小さい集落の範囲につけられた地名です。

（※）4 町 2 村になった鎌倉郡は、鎌倉市誕生を経た後とうとう大船町 1 町のみとなり、その大船町の昭和 23（1948）年 6 月の鎌倉市編入の結果、消滅してしまいました。